日高の野菜・花き生育情報

新冠町・新ひだか町・浦河町・様似町・えりも町
≪６月中旬～７月上旬≫

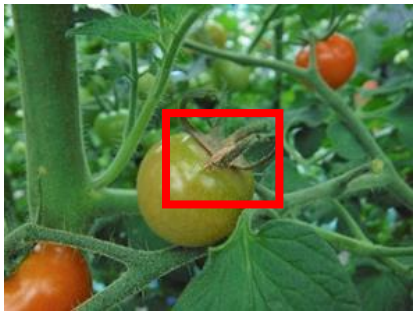
令和７年６月１７日発行
第２号
日高農業改良普及センター本所
Tel：0146-42-1489
Fax：0146-42-2521

【作物共通】

① これからの時期は日中と夜間の温度差が大きいため、ハウスの管理は高温と低温対策の両方に留意しましょう。温度が急速に低下する時は、ハウス内の湿度が高まり病害発生の要因となるため、モヤ抜き換気を行いましょう。
② 低温・多湿条件で発生しやすい病害の発生予察を行い、耕種的対策と合わせて適正な防除を行います。
③ ハウス内及びほ場周辺の雑草除去などほ場の衛生管理を行い、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類等の飛び込みを防止しましょう。
④ 除草剤散布は使用基準を遵守し、隣接ほ場への飛散に注意しましょう。
⑤ 「セイヨウオオマルハナバチ」を導入する場合は、蜂が逃げ出さないように全てのハウス開口部にネットを展張し、外部との出入口の戸は二重以上にしましょう。ハウス内は 17～30℃の範囲で温度管理を行い、温度が上がる場合は換気の徹底と遮光資材を活用しましょう。

【野菜】

作物名	生育状況・管理のポイント	病害虫・生理障害等
ピーマン 無加温半促成 品種：みおぎ	・生育はやや遅れています。一部ほ場で尻腐れ果が発生しています。気温や土壌水分に応じたかん水を実施するとともに、必要に応じてカルシウム資材を施用しましょう。 ・作業は主枝３節目の収穫、整枝が行われています。 ・着果数が増えて株への負担が大きくなる時期です。草姿や開花位置、花柱の様子を確認し、適切な追肥を実施しましょう。 【尻腐れ果】	・アブラムシ類、アザミウマ類の発生が増加する時期です。予察を徹底し、発生初期までに防除を行いましょう。 ・斑点病対策は、６月上旬から薬剤散布による予防が効果的です。未実施のほ場を中心に、予防防除を徹底しましょう。 【斑点病】
ミニトマト ３月定植 品種：キャロル１０	・４月の曇天・低温の影響により生育・出荷量共にやや遅れている。 ・抑制作型の定植に向けて、ミニトマトが収穫しきれるように着色を促進しましょう。 ・着色の促進は、エスレル 10 の使用が効果的です。高温時は散布せず、展着剤の加用は避けてください。	・灰色かび病が一部ほ場で見られます。罹病した葉や果実はほ場外に持ち出し、感染拡大を防ぎましょう。 ・アザミウマ類が一部のほ場で発生しています。予察を徹底し、発生初期までに防除を行いましょう。

ミニトマト ３月定植 品種：キャロル１０ (続き)		 【へたに付いた灰色かび病】
いちご 夏秋どり (高設栽培) 品種：すずあかね すずりっか	・生育は概ね順調です。 ・作業は摘葉、摘花、芽かき、ランナー除去、収穫が行われています。 ・果実肥大に伴い、株への負担が大きくなる時期です。 ・葉数は株当たり 25 枚程度を確保しましょう。 ・弱小花の除去、着果制限等の管理を実施しましょう。 ・チップバーンの発生ほ場では、カルシウム剤の葉面散布を実施しましょう。	・一部ほ場でハダニ類、アザミウマ類の発生が見られます。 ・被害葉が多発するほ場では、殺ダニ剤散布に加え、気門封鎖剤も使用しましょう。 ・外部からの飛び込み防止のため、ハウス周辺の雑草除去を徹底しましょう。 【チップバーン】

【花　き】

作物名	生育状況・管理のポイント	病害虫・生理障害等
デルフィニウム ハウス作型	・生育は一部のほ場で節間が短い傾向が見られています。 ・作業は順次、定植～採花が行われています。 ・気温が上がりやすい時期となっています。急激な寒暖差や乾湿条件は株が弱りやすく立枯症状を誘発しやすくなるため、かん水は少量多回数管理を心がけましょう。	・気温の上昇でハダニ類など害虫が増えやすい時期です。また、うどんこ病も発生しやすい時期となっていますので、予察・防除を徹底しましょう。 【うどんこ病】

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★